

令和5年度

放課後児童支援員等資質向上研修（実地研修）

支援事例集

令和6年4月

静岡県

健康福祉部こども未来局

こども未来課

【目次】

	ページ
I はじめに	1
II 放課後児童支援員資質向上研修(実地研修)概要	3
III 事例集(事例紹介)	4 ~ 34

1. 自己コントロールが難しい

(1) こだわりが強く、気持ちがたかぶった際に切り替えができない

事例①	4
------------------	---

興味の強いことに対して集中力が高く、切り替えが難しいケース
～子どもの6つの行動分類から児童の支援方法を考える

事例②	6
------------------	---

活動中に寝てしまう、思い通りにならないと泣き叫ぶケース
～子どもの行動から原因を仮定し、支援方法を考える

事例③	7
------------------	---

思い通りにならないと暴れる、切り替えが難しいケース
～うまくいったアプローチを検証し、児童の特徴から支援方法を考える

(2) 自分の思い通りにならないときに、暴れる等感情的な行動になりやすい

事例④	8
------------------	---

思い通りにならないと感情的になる、順番を待つのが苦手なケース
～安心する環境を整え、感情を言葉で伝えるよう促す

事例⑤	10
------------------	----

感情的になった後に、落ち着くための手立てがないケース
～児童を叱るのではなく、共感の言葉をかける

事例⑥	11
------------------	----

些細なことでパニックになり、物を投げたり暴れたりするケース
～クールダウン時に絵や図を用いて児童の心に届きやすくする

事例⑦	13
-----	-------	----

感情の起伏が激しくコントロールができないケース
～学校・家庭と当該児童の情報を共有しながら対応する

(3) 自分の気持ちを言葉で伝えるのが難しく、周囲の気を引くために感情的な行動をとる

事例⑧	15
-----	-------	----

気を引くために周囲に分け入っては物を壊し・叩くケース
～支援員間で情報共有しながら他児童との関わりを観察する

2. 多動傾向であり、生活に落ち着きがない

事例⑨	17
-----	-------	----

絶えずしゃべっており、気が移ろいやすく継続的に取り組めないケース
～見守りと褒めることを継続し、諦めないで対応する

事例⑩	18
-----	-------	----

よくしゃべり、注意しても口答えするなど素直に聞き入れないケース
～児童に気づきを促す声かけをする、先の行動を約束する

事例⑪	19
-----	-------	----

多動、ふざけが目立ち、支援員に反抗的な態度・言動があるケース
～他の児童を褒めることで、褒められ効果を波及させる

事例⑫	21
-----	-------	----

気になることがあると思いのまま行動、じっとしてられないケース
～児童の理解を図るため、感情を言葉や顔(表情)マークで伝える

事例⑬	22
-----	-------	----

常にしゃべって、集中力がなく、支援員の指示が通らないケース
～「聞く」「褒める」「教える」を取り入れ、自己肯定感を高める

3. 自己中心的な行動・言動が目立つ

事例⑭	24
-----	-------	----

他者に関心がなく、相手の気持ちが考えられないケース
～具体的な行動を教えながら「相手はどう思うか」という感情を育てる

事例⑮	26
自分の中でのルールが最優先、協調性が乏しいケース ～クラブでのルールを繰り返し伝えること、家族関係が起因する問題 行動については、学校と連携し情報共有を図る	
事例⑯	28
周囲から注目されたい欲求が強いケース ～抽象的な指示ではなく、具体的な指示により詳細を伝える	
事例⑰	29
対人的なコミュニケーション不足による他者視点が欠落しているケース ～当該児童に様々な体験・経験をさせる	

4. その他（1～3以外）

事例⑱	30
ADHD の特性が強く見られるケース ～情報の可視化等により不安を取り除き安心できる環境をつくる	
事例⑲	32
特定の児童に対して執着が強い、物を盗んでしまうケース ～児童の気持ちを聞き取り、どうするのがよいか一緒に考える	
事例⑳	33
周囲からの声かけ等にも反応が少なく、発達に遅れがあるケース ～安心感を与えながら、興味関心を広げられるようサポートする	
事例㉑	34
他の児童との関わりが不得意、支援員の気を引こうとするケース ※特別支援学級在籍 ～保護者との関係をつくり、他の児童との適切な関わり方を促す	

1 はじめに

1. 事例集作成の目的

近年は放課後児童クラブにおいても障害のある子どもなど、特別な配慮が必要な児童の利用も増えており、県は発達障害が疑われる子等への対応について課題を抱える放課後児童クラブに、県が専門的知識を有するアドバイザーを派遣し、放課後児童支援員等への具体的な指導・助言を行ってまいりました。

研修において、実地でアドバイザーから指導をいただいたクラブからは好評をいただく一方、多くの受講希望をいただくクラブのうち、アドバイザー派遣が叶わないクラブも毎年度一定数発生しておりました。

また、現地での指導・助言の内容については、アドバイザーの派遣を受けたクラブ内での支援スキルの向上に留まり、全県の放課後児童支援員の資質向上という観点では、必ずしも当該研修が寄与できていない実態もありました。

そこで県では、令和5年度中に研修を実施した放課後児童クラブに対し、研修前後の対象児童の状況や、アドバイザーからの指導・助言内容等を記載した調査票の作成・提出を依頼し、提出を受けた調査票をベースとした事例集を作成しました。

事例集を県内全てのクラブに配布を行うことで、アドバイザーによる対象児童への指導・助言等の知見を共有し、県全体の放課後児童支援員の資質向上を図ってまいります。

2. 事例集の活用方法

この事例集では、事例を対象の児童の大きな特性ごとに以下の4項目に分類しております。

1. 自己コントロールが難しい
2. 多動傾向であり、生活に落ち着きがない
3. 自己中心的な行動・言動が目立つ
4. その他

更に、項目1に関してはより細かな分類分けを行うとともに、目次において各事例における最も目立つ児童の特性（上段）、アドバイザーの指導内容（下段）を記載しております。

また、個別の事例については、「児童の状況」→「アドバイザーの着目点」
「アドバイザーの助言等」→「研修後の対応等」と研修前後の一連の流れに沿
い作成しています。

自身のクラブに在籍する、対応に悩む児童との共通項を目次から検索してい
ただき、児童へのアプローチ等参考としていただければ幸いです。

また、市町や放課後児童クラブ内でのケースワーク等の研修資料としてご活
用いただくことも可能と考えております。

当事例集について、子どもたちを支える現場で働く支援員のみなさまに、自
由に活用いただくことで、資質の向上、ひいてはよりよい支援に繋がることを
祈念しております。

II 放課後児童支援員資質向上研修(実地研修)概要

1. 目的

発達障害児等への対応についての知識と技術を習得するための実地研修を行い、放課後児童健全育成事業に従事する職員等の資質向上を図る。

2. 事業内容

発達障害が疑われる子等への対応について、課題を抱える放課後児童クラブに、県が専門的知識を有するアドバイザーを派遣し、放課後児童支援員等への具体的な指導・助言を行う。

【実施方法】

派遣日		研修内容
1クール目	1日目	子どもの様子・環境等の観察、情報収集等
	2日目	放課後児童支援員等への実地アドバイス等
2クール目	1・2日目	前回の指導後の状況確認、事後指導

3. 実地研修アドバイザーについて

発達心理学の専門的知識を有すると認められるものをアドバイザーとして委嘱（県内12人（臨床発達心理士会所属））

4. 令和5年度実施状況

(1) 実施期間

令和5年9月～令和6年2月

(2) 実施件数

29クラブ

(3) 研修受講者

290人

事例①						
興味の高いことに対して集中力が強く、切り替えが難しいケース ～子どもの6つの行動分類から児童の支援方法を考える						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることは集中できるが、それ以外のことについては時間がかかったり、取り組めなかったりする。 ・支援員の言葉を指摘し、バカにするような態度をとる。 ・周囲に暴力をふるうことがある。 ・話の内容のつじつまが合わず、どのように考えているか分からない時がある。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中でも興味の高いことを見つけると、意識がそちらに向いてしまう。 ・クラブでの出来事は保護者と共有し、保護者が家で児童と話をしており、状況は理解している。 ・勉強の理解はできている。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今何をしているか？他の児童が持っているものに、興味がっていないか？見守っている。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかったり、取り組めなかったりするのはそのことに興味がないということ。興味のあることには執着しているのは、興味の範囲が狭いのではないか。こだわりが強すぎると切り替えができない。 ・子どもの行動分類は <p>①聞こえていない（聞いてないとは違う。人に興味がない。）</p> <p>②うっかり、不注意（忘れ物や名前が覚えられない。言葉が消えてしまう。）</p> <p>③わからない（発達障害。理解力がない。冗談、皮肉、相手の思いがわからない。）</p> <p>④わざと（悪いことをすると母親が反応するからわざととする。愛着に課題がある。）</p> <p>⑤感覚がデリケート（過敏、すごくデリケート。雨やシャワーが痛い。音。他人が叱られているのが嫌。触られるのが嫌。これらの反対の鈍感の児童もいる。）</p> <p>⑥不安（初めてが苦手、急な変更がダメ。負けるのが嫌。）</p> <p>6つに分類してみることができる。このことをふまえて、子どもたちをみていく。</p>					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力でできないが、支援員との関係ができていれば他のものに興味を示すことができる。言葉が消えてしまうので、視覚で伝える。 ・「ちゃんとして」、「はやく」などの言葉ではどの程度かわからないので、具体的な言葉かけが必要。 ・周りの児童との関りは楽しいところがあることを知ることもできる。 					

<p>研修後対応等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることについて、他の児童と話をしようとして誘ってみる。親しくなった児童と遊んで、他の遊びもあることを知ってもらう。食事の後に楽しいことを作ることで、次も楽しいというイメージをもたせる。 ○実施した支援内容 ・他の児童がやっている別の遊びを見て、興味を示しているため、支援員と一緒にできるよう誘っている。 ○児童の様子の変化 ・優しくしてくれた他の児童に暴力をふるうことがあったが、人との関わり方を少しずつ学んでいる。
---------------	---

事例②**活動中に寝てしまう、思い通りにならないと泣き叫ぶケース
～子どもの行動から原因を仮定し、支援方法を考える**

基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	多動傾向
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼんやりとして活動中に眠ってしまうことが頻繁にある。 ・行動的な時は、過度にはしゃいだり、突発的に危険なことをする。 ・児童の思い通りにならないことがあると、泣き叫ぶ。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親は、健常であり、本人の性格だと考えている。 ・学校とは、同様の行動が表れているため、情報交換している。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該児童は、他の児童からわがままで、勝手、寝ていてずるいと思われているため、孤立している。 ・どんな場面でもすぐに寝てしまう。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝てしまうことの理解として、いやなことを回避する行動であると仮定してみる。 2. ぼんやりしてしまうことについては、困ることがなければまずは見守る。 3. 見通しを持たせるためには、視覚的に示すことが大切である。 4. ルールが守れないときは、その場から離して、話を聞く。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝てもいやなことから回避できないことを伝え、眠そうにしているときは、冷たい物を渡したり、身体を動かして活性化させる。 ・耳からの情報が入りにくいので、ホワイトボードに先の見通しを示してやる。本人の目線に立ってまずは受け止める。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題のスペースとして、つい立て囲むなど集中できる環境を整えた。 ・ストップウォッチを当該児童に見せ、〇〇分までにやろうねとの声掛けや、宿題が終われば遊べるなどの見通しを示し、できたらほめる。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つい立てを「学習マシン」と呼んで、行動のスイッチが入るようになった。 ・おやつを食べる前に宿題ができていると、寝てしまう事がなくなり、遊びの時間を確保できるようになった。 					

事例③						
思い通りにならないと暴れる、切り替えが難しいケース ～うまくいったアプローチを検証し、児童の特徴から支援方法を考える						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い通りにいかないとパニックを起こして暴れ、落ち着くまでに時間がかかる。 例：ブロックで遊んでいる途中で迎えが来ても、遊びをやめることができない。注意すると、怒って暴れる、ブロックを投げるなど、手をつけられない状態になる。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや約束を守ることができず、注意するとパニックを起こして暴れる。切り替えができるようになってほしい。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな観点から、当該児童の特徴を考える必要がある。 <p>【ポイント】話し方・頼み方（単語だけか、文章になっているか）・聞く力・見る力・書く力・動作等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面で対応がうまくいったか（うまくいかなかったか）、当該児童と環境の関係で考えることも必要である。 <p>→当該児童が穏やかなときはどんなとき？どんな対応をしたときに素直に話を聞いてくれたか？</p>					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該児童をよく観察し、気になる行動の理由を考え、当該児童の気持ちや課題を見つけていくことが大切。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつときのあいさつが言えるように支援する。 ・約束やルールを守れるよう、全体も含めて再度声かけをする。 ・頼みたいことがあるときは単語だけでなく、相手がわかるように話すよう促す。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつときのあいさつが今まで言うことができなかったが（恥ずかしいのか、自信がなかったのか）、言えるようになった。 ・頼みたいことがあるときにも、単語だけでなく文章で言えるようになった。 					

事例④

思い通りにならないと感情的になる、順番を待つのが苦手なケース
 ～安心する環境を整え、感情を言葉で伝えるよう促す

基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い通りにならないことがあると、大声で泣き、時には手が出てしまうことがある。 ・順番を待つのが苦手である。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じクラブにいる兄弟が「ママに言うよ」とたしなめることがある。 ・母親が丁寧に児童の話聞き、対応している。学校のクラス担任とも情報を共有している。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の児童とのトラブル：強く責めて、言い争いになる。暴力を受けたり、たたいてしまう。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <p>日常できていること：挨拶ができる、得意なことがある（例えば英語の発音が良い、恐竜の知識が豊富など）</p> <p>できないこと：特定の遊び（なぞなぞなど知的な遊び）に参加しない。</p> <p>家族間の関係性：兄弟への執着、兄弟からの接近、父親への無関心</p>					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甘えることができる、安心できる環境を整える。 ・抱きつくのであれば、握手に置換える。横に座って体が触れている程度の近さで横に座る。 ・周りからの声掛けとして、順番を待てるように見通し、成功体験を積んでいく。感情を身体ではなく、言葉で伝えるように促す。 ・親との信頼関係を築く。 ・母親の育児を労い、話を聞いてあげる。夫婦関係など家族の状況についても確認してみる。 					

<p>研修後対応等</p>	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいるときには、近くで周囲とのやりとりを見守る。 <p>他の児童が使っているおもちゃを使いたくなったとき、言葉で伝えるように助言。</p> <p>児童に対して他の児童がきつく当たるときには、それぞれの言い分を聞いて仲介する。</p> <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で伝えることはできるようになりつつある。 <p>順番を待つことができず、怒りだした時に他の児童が嫌がっていることを伝えたところ、「ぼくも、嫌なことをされることがある」などと気持ちを言葉にするようになった。言葉の真意まではまだ話しができない。</p>
---------------	---

事例⑤						
感情的になった後に、落ち着くための手立てがないケース ～児童を叱るのではなく、共感の言葉をかける						
基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの児童と揉めたり、気に入らないことがあったりすると暴れる。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に状況報告は行っているが、保護者は「わかりました」と言うのみで連携はとれていない。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴れたときに落ち着かせる方法に苦慮している。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家では可愛がられている。 ・「ごめんなさい」と謝ることができる（相手が嫌な気持ちになることはわかっている）。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叱っても行動は改善しないため、当該児童に伝わるように褒める。 ・口で叱るのではなく、そばに行って止める。「嫌だったんだね」と共感の言葉をかける。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外で一緒に遊んだり、得意なこと（野球等）の話したりする。 ・ほかの児童のズボンを下げたり、ほかの児童のランドセルに落書きをしたりしたが、嘘をつかずに正直に話し、相手に謝罪したので、謝れたことを肯定的に認めて、相手が嫌な気持ちになることはしないように伝えると素直に話を聞くことができた。しかし、支援員によって対応が異なり、うまくいかないことが多かった（叱ってしまう、落ち着くまで待てないなど）。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人のときは落ち着いて過ごせるが、ほかの児童といるとテンションが高くなり、暴れることがある。 					

事例⑥						
些細なことでパニックになり、物を投げたり暴れたりするケース ～クールダウン時に絵や図を用いて児童の心に届きやすくする						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段はユーモアがあるが、パニックを起こすと物を投げたり暴れたりする。 ・理屈っぽいところがあり、納得するまでほかの児童に問いつめることがある。 ・最近、ほかの児童が当該児童を避けているように感じる。当該児童と支援員との関わりは良好。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも妹とケンカをし、パニックを起こし暴れることが度々あり、どうしたらいいのか悩んでいる。 ・学校では落ち着いて過ごすことができしており、パニックを起こして暴れることはない。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パニックの原因は些細なことが多く、勘違いからのときもある。急に顔つきが変わり、暴れ出す。 ・物を投げたり、机をひっくり返したりするため、廊下に連れていきクールダウンさせているが、当該児童から目が離せず、ほかの児童や支援員がケガをしないように日々苦慮している。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こだわりがとても強く、共感性が乏しい。人の気持ちを理解することが苦手。 ・思い通りにならないとカッとなってイライラし、感情を押さえられなくなり、パニックを起こす。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パニックを起こしたときは、深呼吸をさせて数を数えたり、グーパーグーパーをしたりして、クールダウンをする。 ・落ち着いたところで、「つらかったね」「落ち着いてえらかったね」と声をかけ、安心感を持たせる。 ・言葉のやりとりだけでなく、絵や図を使うとわかりやすく、当該児童の心により届きやすくなる。 					

研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none">・第1クール1日目終了後から、「ケンカをしている絵」、「殴られて泣いている子の絵」(イラスト)を常に持つことで、パニックは収まっている。また、パニックを起こす寸前で、我慢をすることができている。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・保護者に今回の相談について話すと、「家で家族会議をした」とのこと。家族会議の効果からか、今のところパニックは収まっている。
--------	--

事例⑦ 感情の起伏が激しくコントロールができないケース ～学校・家庭と当該児童の情報を共有しながら対応する						
基礎情報	学年	4	性別	男	診断の有無等	ASD・ADHD
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乱暴、大声、大きな音をわざと立てる。 ・ルール・順番を守ることが苦手。 ・面倒なことから逃げる(遊びのルール決めや話し合い等)。 ・自分のストレス発散のため故意に人に危害を加え、当たってしまっただけだと言いつける。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで在籍していたクラブに様子を聞く。 ・保護者(お迎え時)にクラブでの様子を伝えるが、保護者の児童に対する高圧的な態度が気になる。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員が話をしても真剣に聞けない、自分の非を認めない。(自分が普通だと思っている) ・他児童とのトラブルが多い。 ・感情の起伏が激しく自分でコントロールできなくなると周りが危険になる。 ・当該児童にわざと嫌がるようなことを言う児童が複数人いる。(トラブルの火種を作る) 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩き方・立ち振る舞いから乱暴さが見受けられた。 ・個性的 ・登所～おやつ～学習の流れが、個を基本としていて苦手な集団での活動が少ないのが、当該児童にとって過ごしやすい環境ではないかと思われる。 ・他児童とも多少の関わりを持ちながらおやつを食べ、宿題にも丁寧に取り組んでいた。 ・この日の大半を本のコーナーで漫画を読んで過ごしていた。自分の気に入った事だとしてもかなりの集中力である。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月に入り登校開始と共に夏休み中に見られた乱暴さがなくなった。投薬治療をしているようだが、夏休み中の服薬の有無を保護者に確認してみてもどうか。最近の良い様子を伝え、荒れていた夏休みとの違いを聞いてみる。夏休みに服用していない場合、本人が落ち着いて過ごすためにも服用の効果を保護者に伝える。 					

<p>アドバイザー の 助 言 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当該児童が苦手だとしている事(ルール決め・話し合い)から解放しイライラを招く状況を減らしていく。ただそれには保護者の同意を得て、当該児童の現状(特性)を周りの児童に伝える事が必要になる。 ・過激な発言は当該児童のガス抜きのようなもの、聞き入れて受け流す。 ・トラブルになった時、なりそうなときは一旦遊びを止めてクールダウンが必要。 ・学校・家庭と情報の共有をする。クラブだけでの解決は難しい。情報の共有は支援方法に差が出ないためにも必要。
<p>研修後対応等</p>	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に情報の共有をお願いできるかを聞いてみた。教頭先生が窓口となり相談を受け付けてもらえることになった。具体的な相談はこれから。 ・保護者に夏休み中の薬の服用状況を聞いた。毎日服用していた、現在落ち着いているのであれば、1日の学校生活で疲れているか、周りの環境が夏と変わっていませんか?と聞かれた。心当たりとしては、当該児童とトラブルが多かった児童が夏休みのみの利用だったこと。 ・夏休み明けの登校初日から、大きなトラブルなしで登所後のほとんどを漫画を読んで過ごしているため見守りを続けている。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み終了から2週間余り、現在は落ち着いて過ごすことができている。このまま続くとも思えないため、現在落ち着いていることの薬以外の要因(友達関係等)を考えることが必要と感じた。(夏休み中は薬を服用していないのではと予想していたが、服用していたと回答されたため)

事例⑧**気を引くために周囲に分け入っては物を壊し・叩くケース
～支援員間で情報共有しながら他児童との関わりを観察する**

基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の遊びの輪に参加したいのだが、素直に気持ちを言葉で伝えることができないため、無理に分け入っては壊す・叩くなどの行為や暴言を吐いて気を引こうとする。 ・周囲の児童や支援員に注意されると、腹いせなのか室内を走り回りながら全く関係のない児童が使っている玩具などを壊して回る。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中座ってられず、支援の先生が一人付き校内を歩き回ったり校長室で工作したりする。 ・保護者が学校からの連絡、クラブの報告で苛立ちを露わにし、家庭で当該児童に当たってしまう。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かが起きる前に止めたいがなかなかうまくいかず、他の子を怪我させてしまう。 ・母から学校やクラブでの様子について家庭で強く当たられているため、母の顔色を常に見ており、お迎え時に当該児童の都合の悪いことを伝えられると落ち着かなくなったり、黙り込んでしまう。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暇」という言葉が目立つ。大人とのかかわりを求め、荒い言葉を発しながら声をかけてくる。 ・怒られたい＝関わりを持ちたい様子が見られる。本当は関わりたいが、どうしたら良いか分からない。 ・ADHD の特性が 0 ではないが、母との関係ができることで他者との関係が作られていくため、愛着に課題があると考えられる。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイン・サブメインの支援員を作る。支援員間で情報共有をする。 ・母自身を変えることは難しいため、寄り添いながら今日あった良いことを伝え不安を取り除くことが望ましい。母との関係をここで作り、未然にトラブルを防ぐ。 ・甘える時は甘えさせる。ただし、当該児童だけでなく、「皆もどうぞ」というスタイルをとる。 ・一緒に遊ぶ、もしくはそれが難しいときは当該児童が好きな工作を提供する。遊びが充実していることで落ち着く。行動には理由があるため、他児童との関わりをみていく。 					

<p>研修後対応等</p>	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暇」と寄ってきた際に、トランプで一休さん・七五三・スピード等、遊びを提案したところ（相手がいないとできない遊びであるからか）やり方を知らないと言ごもりながら言ったため、恥じる必要もない意味を含め覚えながらやってみようよと声をかけると、ほっとしたように一緒に取り組めた。 ・頭の回転が速く、すぐにルールを飲み込み覚えていったが、ややズルをして気を引く等、今までの当該児童の特性も見えるものの落ち着いて楽しめた。 ・そんな当該児童の姿を見て、他の児童達が興味を示し見物に来る。その児童達が遊びに混ざることにはなかったが、当該児童にはこちらの遊びに加わり楽しめることで「誰かと一緒に遊ぶのは楽しいこと」という気持ちを育て、遊びの中で順番の大切さや負けても楽しめることを感じてもらいたい。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃をしながら乱暴に甘えたがる姿は以前から見られたが、膝に座るなど素直に甘えたがる様子も窺える。（自尊心もあり周囲の目もあるためか、一進一退ではある） ・同時に、順番待ちの中、他児童に言動で攻撃したり他の物を壊して興味を引くことはやや減り、ただ待つだけではなく、はさみを貸してほしい児童に丁寧に渡す等、支援員への協力も見受けられ、そんな当該児童の行動に相手の児童がやや驚きながらお礼を言う姿も見られた。 ・他の児童と同じタイミングで学校から帰ってきて自ら宿題を広げ、終わった後に楽しいことが待っているんだという発想を持ち始めたように思う。
---------------	---

事例⑨ 絶えずしゃべっており、気が移ろいやすく継続的に取り組めないケース ～見守りと褒めることを継続し、諦めないで対応する						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	多動傾向・知的障害
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく朗らかで、絶えずしゃべっている。 ・児童の意に反すること、普段と違うことに対してはふてくさる。 ・行動の中で、幼さを感じる。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭では、末っ子として甘やかされている印象がある。 ・支援学級に在籍、学校とは児童の表れについて情報交換している。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気が移りやすく遊びが続かない。 ・些細な事で心が折れ回復に時間がかかる。生活習慣の習熟ができていない。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眠くなるとグズったり、嫌な事があるとふてくさるが、そういう行動を取ると先生がかまってくれるとといった、誤った学習をしている可能性がある。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全が確保されていれば、必要以上にかまわなくてよい。 ・悪いことを注意するより、見守りと褒めることを継続し、諦めないで対応する。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題がスムーズに丁寧にできたときは、ご褒美シールを貼るなどしてほめた。 ・児童のルーティーンの行動ができず、乱暴な態度になった時には、行動の順番を「1番〇〇をする、2番〇〇をする」と示し、パニックを起こさないように対応した。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめられる事には、上機嫌で対応するようになった。 ・相変わらず毎日寝てしまうが、目覚めると児童自ら布団をたたみ、生活に戻れるようになった。 					

事例⑩						
よくしゃべり、注意しても口答えするなど素直に聞き入れないケース 児童に気づきを促す声かけをする、先の行動を約束する						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> よくしゃべる。 注意しても、素直に聞き入れることがなく、口答えをする。 片付けをしないなど物事を最後まで終える前に、次のことを始めてしまう。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 母親からも、片付けをするように注意されていて、守るように約束しているができない。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> 祖父に対しては、迎えに来てもなかなか遊びを切り上げられず、待たせおけばいいとの態度でいる。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の行為に目移りして、物を置き忘れた意識がなく、片付けないことにつながっている。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童に気づきを促す声掛け（例えば、テーブルに何か忘れてない？）をして、気付くことができたならほめるようにする。 迎えの時間など先の行動を前もって約束しておく。 遊びをやめられないときには、迎えに来た母親と一緒に遊んでもらうと満足できるかもしれない。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 物を置き忘れている当該児童に対して、自ら気づけるようになるまで、声掛けを行った。 置き忘れに限らず、いろいろな場面やタイミングで声掛けをしてみた。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びに集中しているときには、上の空で返答することもあるが、必死に考えて答えてくれる時もある。 ただし、物を置き忘れたことを気づけても、片付けを支援員に頼んで自ら片付けないことがある。 					

事例⑪						
多動、ふざけが目立ち、支援員に反抗的な態度・言動があるケース ～他の児童を褒めることで、褒められ効果を波及させる						
基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調子にのってふざける。 ・声が大きくおしゃべりが止まらない。 ・机を跳び箱代わりに飛んだり、クルクル回ったりする。 ・おやつ時にげっぷをしたり、汚い言葉を言う。 ・近くの子にちょっかいを出して自分の話題に引き込む。 ・「児童クラブが嫌いだ」「ほかの子も同じ気持ちだ」と言う。 ・意味が分かっていないにもかかわらず、年齢にそぐわない言葉（教育委員会に訴える、威力業務妨害罪、自殺幫助など）で大人をやりこめようとする。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でもよく注意されるようだが、放課後児童クラブにいるときほど調子にのることはない。 ・家庭ではゲームをしたり、ユーチューブを見たりすることが多く、ふざけすぎることはない。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員の注意に反発した態度や行動をとるので、注意の仕方や対応に苦慮している。 ・当該児童のふざけた言動をほかの児童が真似しないように対応している。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多動で常に体か口を動かしている。 ・遊びの中でほかの児童との関わりが少ない。 ・支援員に対して挑発的な態度や言動がみられる。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多動を抑えるのは難しいと心得る。 ・ほかの児童を褒めることによる、褒められ効果を波及させる。 ・子ども同士の関わりを楽しめるように促し、必要に応じて支援員が支援をする。ほかの児童が困ったとき、助けを求めやすいように配慮する。 					

研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できている児童をよく褒める。(例：〇〇ちゃんはよい姿勢だね、女の子たちはとても静かだね) ・当該児童が少しでもできたことを褒める。(例：すぐにおしゃべりやめてえらいね、集中しているね) ・ほかの児童の気持ちを考えさせる。(例：〇〇ちゃんの顔見て、どんな気持ちがしているのかな?) ・両者の言い分を聞き、自分たちで問題解決ができるよう促す。(例：〇〇くんはこう言ってるけどどう思う? どうしたらいいかな?) ・挑発的な態度や言動にはのらず、家や学校での様子を聞く。 ・指示を出した後、ほかの児童の様子も含め、どのくらいできたのかを伝える。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の取り組みが早くなってきて、集中できる時間が増えてきた。 ・ほかの児童の様子を見るようになってきた。 ・外遊びではサッカーの仲間に入れるようになった。
---------------	---

事例⑫						
気になることがあると思いのまま行動、じっとしてられないケース ～児童の理解を図るため、感情を言葉や顔(表情)マークで伝える						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	軽度の発達障害 (保育園の情報による)
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは上級生(5～6年)がいたため緊張しており、大きな問題なく過ごす。 ・自分の思ったまま行動し、気になることがあると行ってしまふ。 ・ほかの児童が遊んでいた物をとることでトラブルになり、暴言や暴力がある。 ・じっと座っていることができない。 ・褒めてほしい様子がみられる。 ・優しい一面もあり、ほかの児童に「大丈夫?」と声をかけることもある。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母はとても厳しく、手が出てしまうこともある。父は優しく、ゆったりと見守ってくれている。 ・母が不安にならないよう、放課後児童クラブでの様子を伝えている。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がうまく話せず、理解力も乏しいため、トラブルがあった際にクールダウンしてゆっくり話をすることが難しい。 ・ほかの児童のストレスも大きいいため、両方をフォローしながら支援することが難しい。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況やルールを理解が難しく、聞いてイメージすることが苦手である。 ・自分の気持ちをうまく伝えられないため、思ったままの行動をとり、気になることがあると行ってしまったり、すぐ手が出てしまったりする。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さいことでも、できたことを褒めてあげることが大事。 ・状況に応じて、気持ちを言葉にしながら、顔(表情)のマークなどを見せる。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容(可能な限り具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの児童が遊んでいた物をとったことでトラブルになったため、泣いている表情の絵を見せて説明すると、言葉で説明するよりも早く自分の過ちに気づいたようだった。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは謝るまでに時間がかかったが、絵を使うことでより早く素直に謝ることができた。 					

事例⑬						
常にしゃべって、集中力がなく、支援員の指示が通らないケース ～「聞く」「褒める」「教える」を取り入れ、自己肯定感を高める						
基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示が入っていかない。 ・常にしゃべっている。 ・集中力がなく。 ・意図的に支援員を怒らせる言動をとる。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親に当該児童のことを相談しても反応が薄い。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員等からの指示に従えない。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHDの疑いはあるが、決めつけてはいけない。 ・話しを聞いてもらいたがる・漢字の書き順がわかっていない(形で覚えている。)算数は理解がある。 ・ゴミは拾えたが、ゴミ箱には捨てない。製作は集中していて片付けもできていた。 ・おやつは投げて口に入れてた。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの関わり方で大事なのは、当事者の気持ち、言い分を「聞く」、当たり前でできることや、細かい所を指摘して「ほめる」、具体的に何をどうしたらよいかができるように「教える」ことである。 ・学校とは連携をとり、保護者へは子育ての労をねぎらい、ほめてあげることも大切。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童間のトラブル後、両者の言い分、気持ちを聞き、片方の味方をしない。言い分をすべて聞いた後、「先生は…思うよ」と伝える。 ・当たり前でできていることを、クラブ全員に対してほめる。クラブ室内を走っている児童に対し、「歩きましょう！」と端的、肯定的に伝える。 ・注意が必要な児童には、支援員が大声を出すのではなく、その児童の横に行って話す。 ・製作の手順を口頭のみでなく、ホワイトボードに記す。 ・学校から帰って来た直後、お話をしたがる児童の話聞いてあげ、長く続くようならば「また後で詳しく聞かせて！」と言う。 					

研修後対応等	<p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・トラブル後、両者の言い分け、気持ちを聞いた後、和解できた。・少しの変化に気づき、できたところはほめてあげたら、笑みを浮かべ得意気な表情をした。・児童の横に寄り添って注意をすると、指示が入りやすかった。・製作の手順をホワイトボードに記すと、児童たちにもわかりやすくなり、支援員に聞きに来る児童が減った。・先にお話をしたがる児童の話を聞いてあげると、うれしそうにスッキリし、その後の宿題に集中できた。
---------------	--

事例⑭

他者に関心がなく、相手の気持ちが考えられないケース

～具体的な行動を教えながら「相手はどう思うか」という感情を育てる

基礎情報	学年	4	性別	男	診断の有無等	通級指導歴有り
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故意に周囲の人にぶつかり、「ぶつかられた」と言い相手を叩く。その行為が悪いと思っていない。 ・食べこぼしが多く、自らがこぼしたものは「当番が片付けるべき」と言い片付けようとししない。自らが当番の時にも当番の仕事をししない。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員や友だちの名前を覚えていない。 ・通級指導を一時期受けていたが、既に終了している。 ・通級指導については保護者からは「忘れ物が多く、口ごたえが多かった」ため通ったと回答あり。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブの他の児童の名前や支援員の名前を覚えていないので繰り返し伝えている。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の特性と見られる特徴が多数ある。見えること、わかることがわからない。自分が反省することがない。人との関わりがうれしくない。相手はどう思うか？という感情が育っていないように思われる。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつの時、おやつ<small>の</small>袋（切り口の部分）が落ちてたと言うと、『おれのじゃないよ。』と言う。『青色（青色の袋のお菓子を食べていたのはこの子だけ。）だよ。』と言うと拾いに行った。 ・そのため、具体的にこちらがして欲しいこと、自分がやらなければいけないことを教える。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容（可能な限り具体的に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員の名前を教えて覚えさせるために、支援員は名前と呼ばれたらすぐに返事をして、そばに行く、を繰り返す。名前を覚えられた支援員は、うれしいことを伝えほめる。 ・喧嘩をして叩いたときは、加減を教える（具体的に）。叩かれた人をどう思うか？相手は自分をどう思うか？など当該児童と話をし、相手を思いやる感情を育てる。 					

研修後対応等	<p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 支援員の名前を覚えていたとき、よく覚えてくれたことを褒めてうれしい気持ちを伝えると、うれしそうに笑う。忘れてしまうと、考えているジェスチャーをする。だが、忘れていることが多い。・ 読書していることが多い。話しかけるとうれしそうに、笑いながら話を聞いている。
---------------	--

事例⑮

自分の中でのルールが最優先、協調性が乏しいケース
 ~クラブでのルールを繰り返し伝えること、家族関係が起因する問題行動については、
 学校と連携し情報共有を図る

基礎情報	学年	3	性別	女	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動が衝動的で自他共に危険なことが多い。(クラブの外に出ようとする等) ・他児童に突然危害を加える。 ・協調性がない。 ・行動のすべてが自分の中のルール最優先で、周囲からのアドバイスや意見を聞こうとしない。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にクラブでの様子を伝えるが家でもおおよそ変わらないと言う。 ・以前学校の勧めで検査をしたが知能が高く障害ではなかった、一連の理解が難しい行動は知能と心の年齢とのギャップからくるものだと保護者は理解している。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に指示されることに強い拒否感があり、自分の殻にこもってしまう。 ・他児童とのトラブルが多い。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブに来る時間が明らかに他児童より遅く、言い訳をしていた。 ・宿題等に集中している時は知能の高さがうかがえる。 <p>(アドバイザーの存在が気になる様子、今日はきちんとしていた方がいいのではと自分が感じたクラブ内の変化を敏感に察知し、支援員に伝えていた。)</p>					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブのルールをシンプルに伝える(ルールを守れないとクラブは利用できない) ・人を傷つけたら謝るのが当たり前、本人が謝れないのであれば保護者が謝る、また、その姿を子どもに見せる。 ・他児童とのトラブルの理由が単純ではない(自分から仕掛けていって自分が被害者になる等)。被害者になる事で母親との関係性を保とうとしているのではないか。 ・母親がクラブに伝えている、何らかの検査の結果(知能が中学生レベル)があやふや。母親がこの結果に固執している事も彼女の支援を難しくしている。全体的にクラブ側が持っている情報が少ないため、学校に連携をお願いするのがいいのではないか。 					

研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none">・学校に情報の共有をお願いしたが、個人情報のため、児童のことは保護者に直接聞いてほしいと連携は難しいと返事をいただく。ただ内容によっては回答できることもあるかもしれないと言われたため、今回の実地研修のアドバイスのみ限定で学校に回答をお願いしてみる。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・まだ新たな取り組みがないため、変化なし。ただ彼女も夏休み中より落ち着いている。
---------------	---

事例⑩**周囲から注目されたい欲求が強いケース**

～抽象的な指示ではなく、具体的な指示により詳細を伝える

基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人の指示に反する行動=かっこいいと思っている節がある。 ・1対1で注意を受けるとへそを曲げ、相手に歩み寄ってもらうまで頑なに動かないというポーズをとる。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では他の児童が教室を飛び出し動き回っていると、気になり落ち着かない。 ・学校のクラスが保護者に自由に見に来てほしいと教室を開放しており、保護者は何度か見に行っている。 ・授業中等に落ち着きがない他の児童の影響を受けていると捉えている。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の目に気が大きくなり、危険なこともおどけてしがち。注意にはへそを曲げるが、良いことをしてくれたときに褒めると背筋が伸び、他者に対しては厳しくなりがちな面もある。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHDの特性が見られるが、適応はできてきている。 ・葛藤からの気持ちの折り合いが出来てきており、自分でバランスをとっている。 ・役割を与えられる事で当該児童への環境調整ができる。 ・1人であることと一緒に遊ぶことのバランスを取りながら過ごしている。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中でおもちゃ箱に入ることがNGならば別の段ボール箱等、入っても良いものを用意する。 ・抽象的な指示は苦手なため、どこを見ているか、どこを向いているかなど、具体的な指示により詳細に伝える。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の児童が片付けられなかった玩具の片付けを、全員に向けてお願いすると、多くの児童と共に当該児童も興味を示した。 ・「〇〇さんのお手伝いもあると綺麗になって嬉しい」などの言葉を当該児童に伝えると悪い気はしない様子で手伝いに加わる。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頼られている、認められていると感じるようになったのもあってか、こちらの指示が通りやすくなった。一進一退ではあるが、引き続き必要なときに手を差し伸べることができるよう、努めたい。 					

事例⑰						
対人的なコミュニケーション不足による他者視点が欠落しているケース ～当該児童に様々な体験・経験をさせる						
基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分中心 ・言葉づかいが悪い。 ・注意されるとすぐに他の児童のせいにする、手がでる。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時その日にあった事を伝える（良いこと、悪いこと）。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見が通らないと手が出たり、相手のせいにする。 ・促している時、話を聞いてくれているのかわからないときがある。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の特性が見られる ・一人っ子 → 体験不足・挫折経験が少ない ・対人的なコミュニケーションが苦手 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を色々させた方が良い。 ・本人の好きなこと、好きなキャラクターなど共有していくと良い。 ・話の意味がわかっていないから目をそらすのかもしれない。 → 具体的、端的に伝える。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びで一人にならないよう、声掛け。（おにごっこやなわとび） ・室内での遊び（レゴブロック）他の児童ともめない様そばで見守り。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行中のため、大きな変化はまだ見られない。 ・外遊びで体を動かしてくると、少し落ち着いているように思う。 					

事例⑩**ADHD の特性が強く見られるケース****～情報の可視化等により不安を取り除き安心できる環境をつくる**

基礎情報	学年	2	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼い印象。 ・言葉がたどたどしく、気持ちが盛り上がると大きな声を出してしまう。 ・喧嘩で言葉が出てこず相手を噛んでしまうことがある。 ・興味がない事柄には興味が全くなく、どんな場所でも状況でも寝転んでしまう。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では靴下を脱いで歩き回るようで、毎日足裏を真っ黒に汚して帰所。 ・家庭では漢字等の宿題はよく見てくれており、分からない時の探し方も身につけている。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ内で行動が目立つ他の児童と行動を共にすることが多く、自分以外にも注意されている児童がいると安心して気が大きくなってしまいうため、指示が通りにくくなる。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHD の特性が見られる。特性として重力が苦手でダラッとしたい、座るのも大変でバランスを取るために左右に揺れてしまうのではないかと。 ・ランドセルの中から宿題、筆箱等探し出すことも困難。また同時に作業をするのが苦手。 ・同じ形の物をいくつも作り（同一性保持）、それをつなぎ合わせたおもちゃを作って遊んでいる。気に入った同じものに安心感を持つようだ。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題等のやり方についても「立ってやる」「寝そべってやる」等、やりやすい方法があるため、許容することも必要。 ・適度な揺れや感覚で動くため、寝転がりたくなってしまいう（感覚統合）。→バランスをとる練習をする。 ・知らない場所は見通しが立たないため、不安に陥りやすい。画像を見せるなど、可視化して説明し、予習することが大事。 ・信頼できる人がいたら安心するため、不安に寄り添う。（安心の保障） ・当該児童のペースをわがままと思わないこと。（合理的配慮が必要）。 					

<p>研修後対応等</p>	<p>引き続きホワイトボードを活用する。声の大きさレベルについては当小学校において実施されていたこともあり、既に知っている児童も多い様子。実際にやって見せ当該児童だけでなく、他児童も興味を持って取り組めるよう配慮する。</p> <p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該児童のやりやすい姿勢（立ってやるなど）での宿題に取り組みを見守る。 ・手助けしてほしいとき、1人でやりたいとき等、その時々状況に合わせて判断する。 ・工作遊びでは当該児童が作ったものに共感し、興味を示した児童に声を掛け、自然に加わるように誘い、他児童との関わりを楽しんだ。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該児童の作ったものに周囲の児童が興味を持ち見せてもらうなど、今まで関わりのなかった児童たちにも関係性がみられる場面もあった。
---------------	--

事例⑱

特定の児童に対して執着が強い、物を盗んでしまうケース
～児童の気持ちを聞き取り、どうするのがよいか一緒に考える

基礎情報	学年	4	性別	男	診断の有無等	多動
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼんやりとしていて行動が進まない。 ・特定の児童（好意を持つ児童や対立した児童など）に対する執着が強い。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親からは威圧的に育てられている様子。 ・支援学級に在籍。学校とは情報交換している。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の児童等と集団で遊ぶことに抵抗を感じて、室外へ出てしまう。 ・固執した考えから気持ちを切り替えられない。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好意を持つ女兒に対する執着について（深刻な問題） ・女兒の姿に母を重ねていたり、対面に対する態度の「お手本」になる人物が周りにいるのではないか。 ・物を盗む行為は、問題が起きる前に適応行動を明確にしてあげる。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の児童の前では指導しない。 ・児童の気持ちをしっかり聞き、紙面に書き出して具体的にどうすればよかったかを一緒に考える。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女兒と仲良くしている弟を見つけ、イライラを訴えたため、視覚に入らないように席を変えた。 ・他の児童とは、「仲間」として一緒に遊べるよう鬼ごっこなどの集団遊びを促し、見守った。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間に入って遊べる事で疎外感が減りイライラしている時が少なくなった。 ・落ち着いて過ごすことが多くなり、宿題などもスムーズに進むようになった。 					

事例⑳						
周囲からの声かけ等にも反応が少なく、発達に遅れがあるケース ～安心感を与えながら、興味関心を広げられるようサポートする						
基礎情報	学年	1	性別	男	診断の有無等	なし
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に無口である。 ・楽しく遊んでいる他の児童に対して、わざと邪魔をする行動をとる。 ・注意されても無反応である。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親に児童の気になる行動を伝えても気にする様子はなく、問題視していない。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声掛けに対して反応が少なく、通じているかどうか分からない。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中できる環境を整える：他の児童が目の前に居ると宿題ができないが、大人が間に入ると取り組めた。 ・遊びの邪魔をする理由：オセロのルールが分かっていないなど、分からないから邪魔をしてしまう。 ・児童の発達の程度：理解力、判断力、やっとな他の児童について知っている状態。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーションが苦手だが、誰かが近くに居ることで安心感を与える。 ・物事への興味、関心が狭いが、まずは近いものから広げていけるとよい。 ・負けたくない気持ちも強いようだが、負けても楽しいに切り替えられる「ビリじゃなかったね!」といった、声掛けが大事である。 					
研修後対応等	<p>○実施した支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校から宿題までの流れについて、声掛けのタイミングを逃さないよう気をつけている。 ・他の児童と遊ぶときは、できる限り遊びの中に支援員も交じって様子を見ている。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼している他の児童の隣で宿題をするなど、落ちついて取り組めるようになった。また、宿題以外でも自由学習の内容についてアドバイスを受けていたりして、コミュニケーションが少しずつとれるようになっている。 					

事例②						
他の児童との関わりが不得意、支援員の気を引こうとするケース ～保護者との関係をつくり、他の児童との適切な関わり方を促す						
基礎情報	学年	1	性別	女	診断の有無等	特別支援学級在籍
児童の状況	<p>○性格・特徴的な表れ・児童や支援員との関わり など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣い、振る舞い等がやや幼い。片親を亡くしているため、心理的な影響が出ているような印象も受ける。 ・こだわりが強い面があり、指示や指導を聞かないときがある。 ・集団遊びは苦手だが、支援員と1対1で話すことや遊ぶことはできる。 <p>○家庭や学校での様子・連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級に在籍していることもあり、少人数での生活に慣れている。 <p>○対応に苦慮していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が迎えに来た際、すぐに帰る支度をせず、逃げ回ったり隠れたりして、帰るまでに10分以上かかる。支援員に相手をしてもらえることが嬉しいようにも見える。 					
アドバイザーの着目点	<p>○アドバイザーの児童に関する着目点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との関わり方に心配りが必要である。 ・言葉遣いやほかの児童との関わり方に課題がある。 					
アドバイザーの助言等	<p>○アドバイザーからの助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の協力が得られるような関係づくりをする必要がある。 ・当該児童がほかの児童との関わりを求めているので、適切な方法で遊びに入れるよう支援することが大切である。 					
研修後対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・当該児童の要求に応じる際、不適切な方法のときには優しく行動を正し、適切な方法を身につけられるように支援する。 ・適切な方法をとることができたときには、認めたり褒めたりすることで、当該児童の気持ちが前向きになるように支援する。 <p>○実施した支援内容（可能な限り具体的に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに入りたいたきは「いれて」と言うように指導する。 <p>○児童の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から大きな声で「いーれーて」と言って、遊びに入ることができた。 					